日本ソーシャルワーカー連盟

2020年世界ソーシャルワークデー
2月29日、日本・東京

社会変革に向けた行動が必要な時：危機から希望へ
ラテンアメリカのソーシャルワーク

シルヴァナ・マルティネス博士

国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）グローバル会長

伝統的ソーシャルワーク

- ラテンアメリカでは、専門職としてのソーシャルワークの歴史の中で、「社会変革」に複数の意味があった:

ソーシャルワークはラテンアメリカにおいて
1920年代に専門職として現われる

ソーシャルワーク教育は医学とカトリック教会に強い影響を受けた

専門的な実践は個人、特に貧者、孤児や寡婦の問題に焦点を当てた

原理 → 慈善 | 博愛 | 社会統制 | 衛生 | 社会支援

方法 → ケースワーク | 伝統的ソーシャルワーク | 個人変容型実践

解放者としてのソーシャルワーク

- 1960年代半ばに**「再概念化運動」**が現われる
- **「伝統的ソーシャルワーク」**を強く批判した
- 世界やラテンアメリカにおいて起きた大規模の歴史的な変化に影響を受けた

当時のソーシャルワークへの理論的な影響：

歴史的・批判的な方法論

- マルクス主義
- キリスト教人道主義
- 依存理論
- 解放の哲学
- 解放の神学
- 大衆教育

主な特徴：

- 政治的な次元の導入
- 社会問題に対する批判的な見方
- 歴史的な文脈の議論への導入
- 社会問題と社会の構造的な問題の結びつき
- 大衆層との共同ソーシャルワークの使命
- **「社会変革」**は社会的な抑圧のシステムからの個人の解放と結びつく。**「解放者としてのソーシャルワーク」**と呼ばれる
- 本運動は、当地域内において各国の軍事独裁政権が誕生する中、1975年に終焉を迎える。

制度的及び管理主義ソーシャルワーク

- 1980～1990年代のソーシャルワークへの理論的な影響：

構造機能主義	マネジメント理論	システム理論	社会管理	国際的な金融機関

専門的な実践の特徴：

- テクノクラシー、個別主義、非政治的
- 手段的・操作的な方法論
- 「何をする」や「誰のためにする」よりも「どのようにする」に焦点を当てる。
- 社会問題は社会システムからの「異常」、「病理」、「逸脱」として捉えられた。
- 「社会変革」は個人や家族が社会システムの機能へ「矯正」や「適応」することとして捉えられた。
- つまり、社会的な対立を避けるために、社会統制によって社会的な支配を深めた専門的な実践であった。

現代ソーシャルワーク

- 2000年代から現在に至るまで、ラテンアメリカのソーシャルワークは改めて強い政治的な側面をもっている。
- **社会問題**と**現行の社会秩序**に対する**批判的な見方**を再び取り戻した。
- 専門的な実践は**社会介入**として捉えられる
- 社会介入は、主に領域、社会運動、大衆層、社会組織に焦点を当てる。

社会的な対立 ≠ 異常や社会システムからの逸脱

専門的な実践はより広範囲の専門的な取り組みに結び付き、そしてそれらが社会的な取り組みにつながる：

- 専門的なパワーが形成される場
- ソーシャルワークが専門職として認められる場

- ソーシャルワーカーを代表する場
- 専門職のヒエラルキーを形成する場

- 専門的なアイデンティティがエンパワーされる場
- ソーシャルワークの貢献が可視化される場

- ソーシャルワーカーが研修を受ける場
- 同僚の労働基本権をアドボケートする場

- 人権をアドボケートする場
- 人権侵害を訴える場

ソーシャルワーク団体（連盟・協会）が重要な役割を果たす

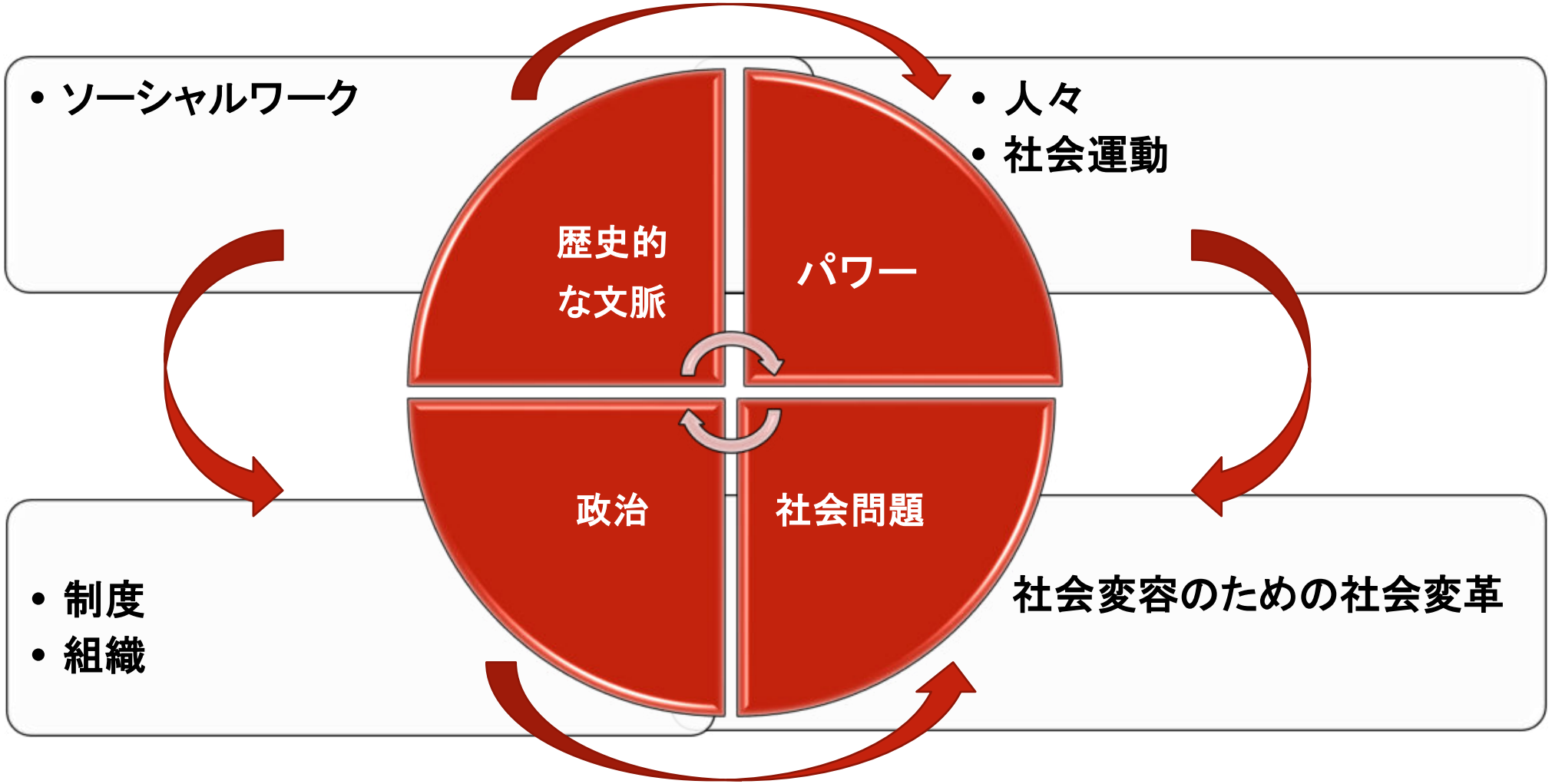
多様多彩なソーシャルワーク

今日、ラテンアメリカでは一つのソーシャルワークを語れない。
ソーシャルワークを考える・実践するあらゆる方法がある。
しかし、他地域と区別できる**共通の特徴**がある：

a) **社会問題に対する歴史的、政治的、包括的なアプローチ；**
b) **専門職の政治化；**
c) **社会秩序の形成、再生産、変容における国家の中心的な役割；**
d) **専門職の大衆層と社会運動との結びつき；**
e) **ソーシャルワーカーの動員、闘争、抵抗する能力；**
f) **ソーシャルワーカーの労働者階級としての自覚。**

社会問題に対する歴史的、政治的、包括的なアプローチ

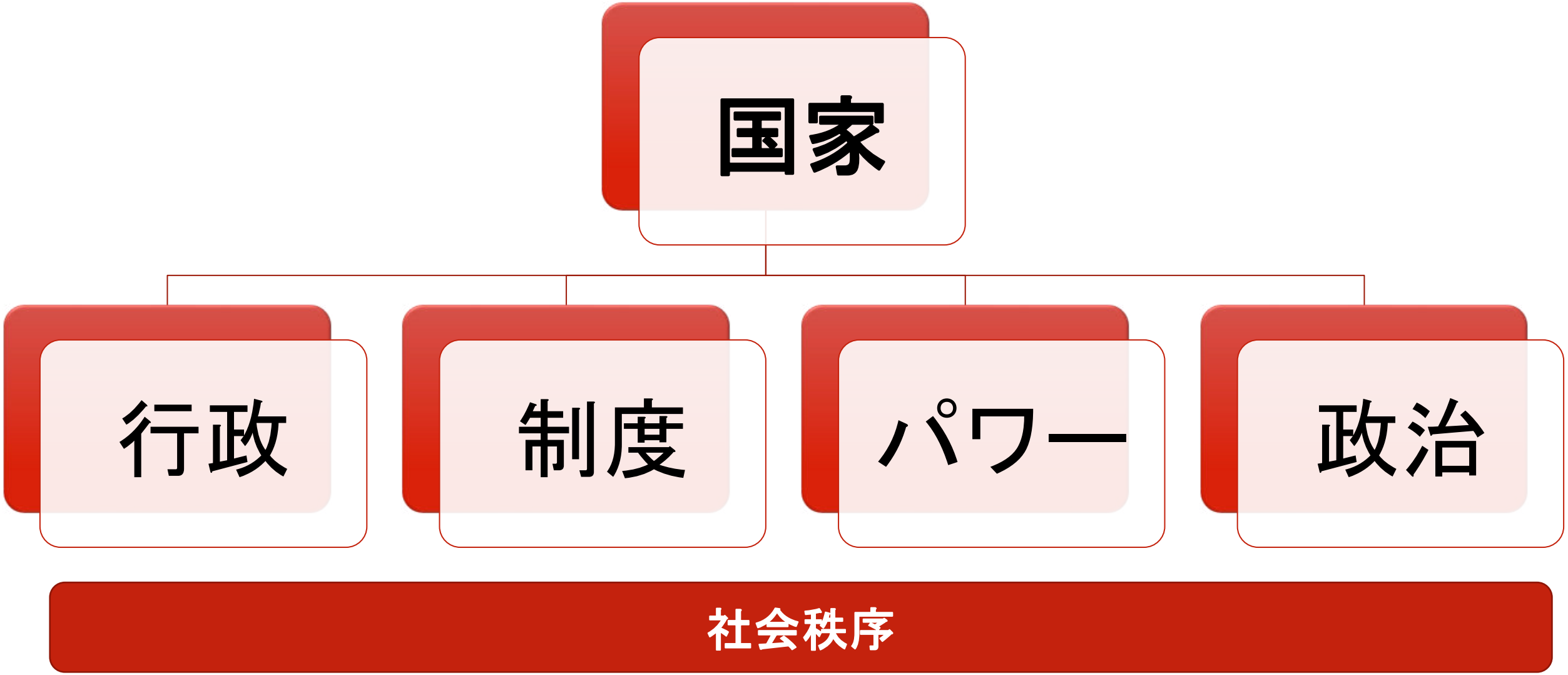
社会問題が形成される**歴史的な状況**に焦点を当てる。



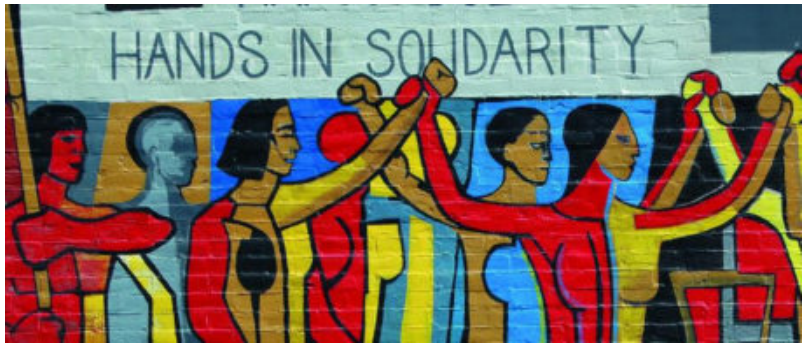
ソーシャルワークの政治化

「ソーシャルワークの政治的な次元」の可視化	• 専門的な実践は中立的ではない！
倫理的な責任の自覚	• 専門的な実践において • 知の生産において
もっているパワーの自覚	• 人々の解放と自立形成 • 人々の管理と支配

社会秩序の形成、再生産、変容における国家の中心的な役割

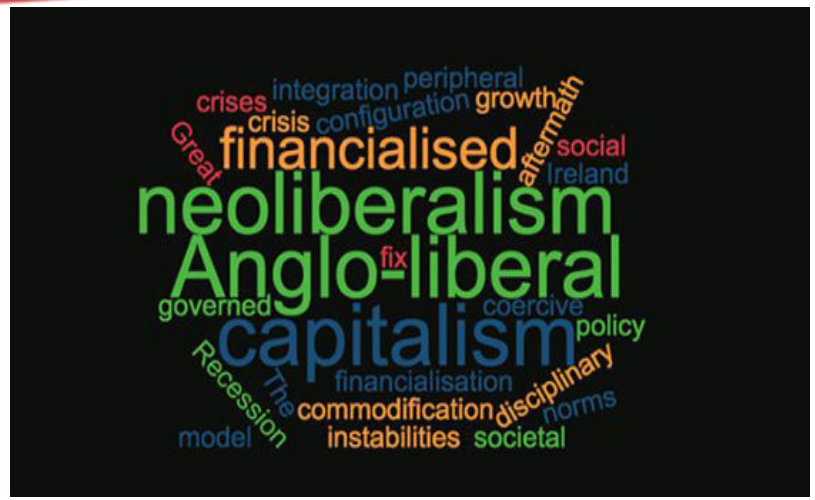


人々と協働するソーシャルワーク



社会闘争
＝
社会征服

ソーシャルワーカーの動員、闘争、抵抗する能力



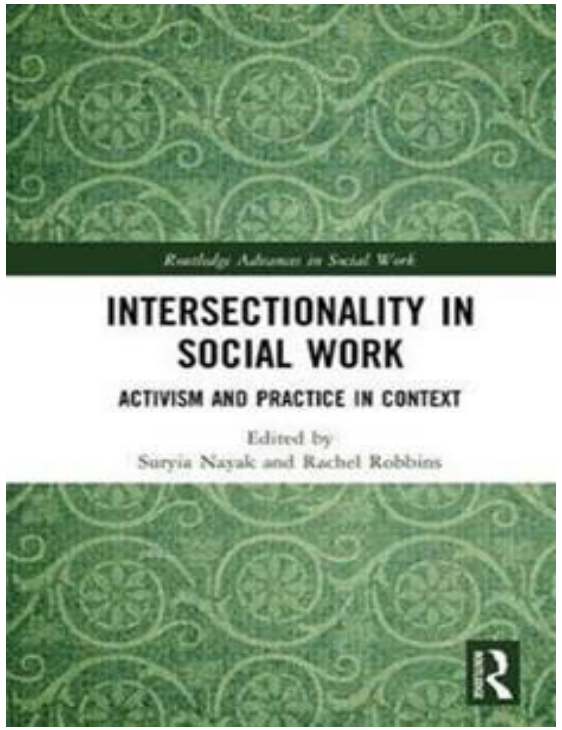
ソーシャルワーカーの労働者階級としての自覚

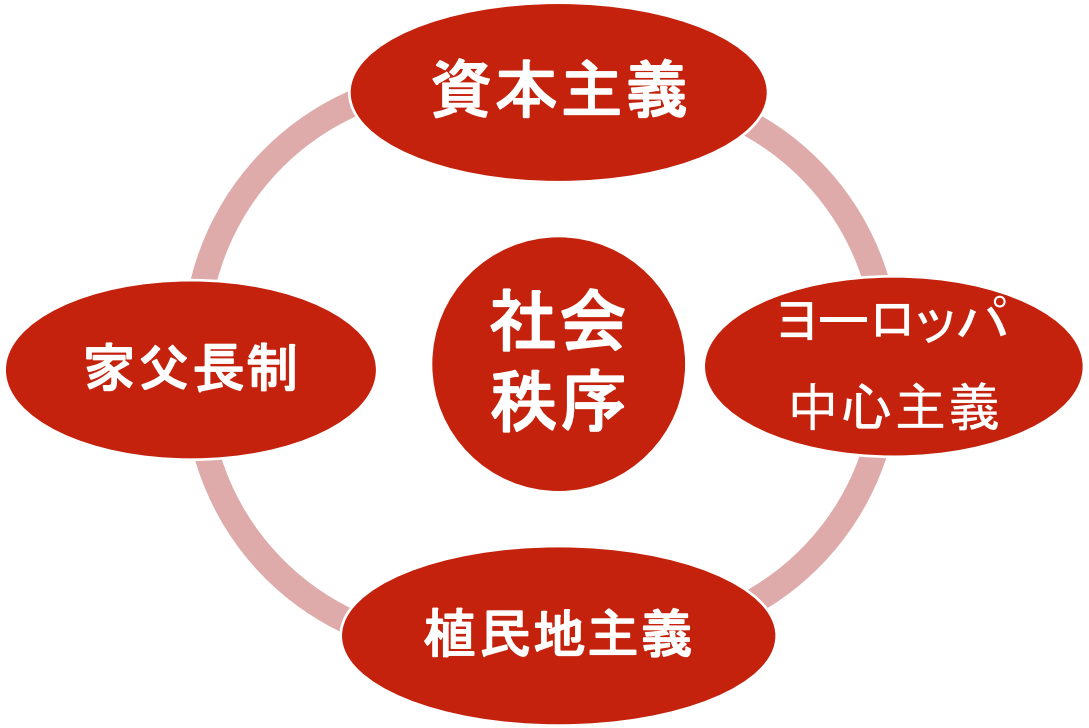
=

- ソーシャルワーカーとして、専門家、実践家、教育者、知識人である。しかし、給料に依存するため、賃金労働者でもある。これは所属する社会階級として労働者階級を決定する。
- この自覚をもって、労働闘争と労働組合に参加する。
- 他の賃金労働者と比べて、特に学歴、もしかしたら社会的な地位は上であるが、だからこそ、最も取り残され、脆弱な大衆層に対する連帯と使命の義務がある。

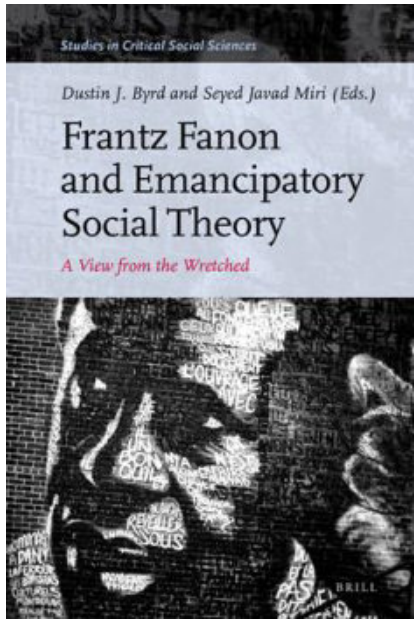
批判的及び解放的ソーシャルワーク

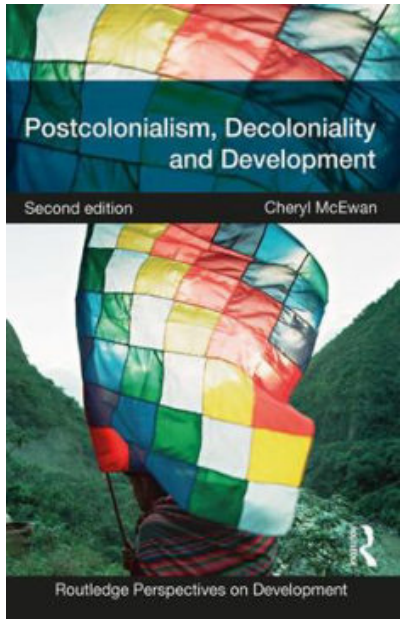
- ラテンアメリカでは、今日のソーシャルワークは現行の社会秩序を形成する抑圧のシステムとパワーの手段に対して交差的な視点をもっている。これらのシステムと手段は、資本主義、家父長制、ヨーロッパ中心主義、植民地主義である。
- ソーシャルワークは、社会問題の範囲と多様性及び人権の尊重に対するより良い理解に役立つ他の理論的・認知論的なアプローチを取り入れている。





フェミニズム・ポスト植民地主義理論・脱植民地主義アプローチ





解放的ソーシャルワーク

結論と議論への展望…

- 「社会変革」の話をする時、どのような、誰のための、何への変革であるかを確認することはいつも重要である。
- ラテンアメリカのソーシャルワークでは、大衆パワーの形成を抜きにした「社会変革」は不可能である。つまり、大衆層自体と彼らの社会組織が変革と歴史の主人公として積極的に参加することが欠かせない。
- ネオリベラリズムが示す懐疑主義、諦め、宿命論に直面しながら、批判的及び解放的ソーシャルワークは、世界社会フォーラムと各種社会運動と**「もう一つの世界は可能だ」**という理念を共有している。

A World where many Worlds fit…ALL THE WORLDS!!

毎日、職場で変革と社会変容のために
闘わなければならない、
この闘いを守らなければならず、
毎日、作っていき、強めなければならない。
毎日、取り組んでいる創造的な実践
の重要性に対する自覚を
ソーシャルワーカーの中で作っていかなければならない。
ソーシャルワークを創造的で、新しいものにしましょう。

ありがとうございます！